

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	少年矯正の基本的理念の成立とそれに基づく少年院寮室の建築計画に関する研究
Title(English)	
著者(和文)	野口智美
Author(English)	Tomomi Noguchi
出典(和文)	学位:博士(工学), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第9848号, 授与年月日:2015年3月26日, 学位の種別:課程博士, 審査員:大野 隆造,奥山 信一,中村 芳樹,斎尾 直子,那須 聖
Citation(English)	Degree:., Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第9848号, Conferred date:2015/3/26, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	論文要旨
Type(English)	Summary

論文要旨

THESIS SUMMARY

専攻： Department of	人間環境システム	専攻	申請学位 (専攻分野)： 博士 (工学)
学生氏名： Student's Name	野口 智美		指導教員 (主)： 大野 隆 造 Academic Advisor(main)
			指導教員 (副)： Academic Advisor(sub)

要旨 (和文 2000 字程度)

Thesis Summary (approx.2000 Japanese Characters)

本研究は、「少年矯正の基本的理念の成立とそれに基づく少年院寮室の建築計画に関する研究」と題して次の5章より構成される。

第1章「序論」では、研究の背景、矯正施設（刑務所、少年刑務所、拘置所、少年院、少年鑑別所及び婦人補導院）に関する基本的事項並びに既往の研究論文等を整理して、少年矯正の施設建築に関して行う研究の意義を示し、少年院は少年の再非行防止を目指し「収容して矯正教育を受ける施設」であり、その使命を果たすため少年院建築には、保安、教育、生活という三つの性能の実現が求められること、新しい「少年院法（平成26年公布）」や「少年矯正を考える有識者会議提言」を踏まえた今後のあるべき姿としては、教育効果をより高められるよう落ち着いた居住環境の整備及び開かれた施設とする建築計画が必要であること、そして、それらを具体化する手法としては寮室内と屋外空間との接続を考慮した寮室計画が重要であることを述べ、本研究の目的と構成を明示している。

第2章「少年矯正施設の変遷と矯正教育の基本的理念」では、少年施設については建築学からの研究が見当たらず関連する参考図書もないため、法律や矯正分野の専門図書を基に、明治以降に懲治監及び懲治場、特別幼年監、感化院等が設置されて、大正11年に少年院の前身である矯正院が誕生し、昭和23年に現在の少年院の組織となるのにもない、監獄内で誕生した「少年刑刑」から「少年保護」という現代の少年矯正の基本的な理念の成立の経緯を確認している。さらに、矯正関係機関誌等から施設建物の転換点となる記述を抽出し、施設便覧等からわずかに確認された配置平面図等をあわせみること、それぞれの建築的特徴を確認し、施設建築もその理念に基づき少年刑刑（刑罰）の場から、少年保護（教育）の場として計画されて変化してきたものであることを明確にしておき、少年矯正の施設建物に関する研究の端緒となる歴史資料としてまとめて次章以降の現代及び将来の施設建築を考える基盤としている。

第3章「現代少年院の建築計画と設計の要点としての居室と屋外空間との関係」では、まず事例から今日の少年院施設を概観した後、それらがいかに形作られてきたのかを、矯正関係機関誌等に掲載された現代の施設建物に関する記述を用いて考察し、少年保護の精神のもとに矯正教育を行うための施設建物としての計画上の考え方を捉えている。その上で、新しい少年院法及び有識者会議提言に対し施設建物に関する応答として考えられる、矯正教育効果の一層の向上を図るために一般住宅により近い生活環境とすること及びより開かれた施設とすべきという課題に対して、寮室と屋外空間との接続点である窓まわりの設計による提案の可能性を示し、その要件を求めるため、居室から直接屋外へ出られないという共通の特徴をもつことから特に集合住宅団地を対象として、ヒアリングやアンケート調査等を用いて屋外空間に対する居住者の意識の分析を行い、居室の窓から見える植栽の量や見え方及び窓際に置かれた植栽がその印象と満足度に大きく影響していること等を明らかにしている。

第4章「在室者の意識からみる少年院の単独寮室と屋外空間との関係」では、一般社会の生活環境として前章で示した集合住宅の居室において窓からの景色が在室者の意識に影響を及ぼすという点について、少年院の寮室という屋外へ出ることが厳格に制限されている上に格子等が設置されている建築空間にあっても、同様の効果があるとの考えに基づき、それを明らかにするため、模擬寮室を製作し、窓からの景色と格子の形状及び位置を可変とした合計22のパターンについて、実際に参加者がその室内に在室して印象評価を行う実験を実施している。その実験結果の因子分析からは、一般的な住居と共通する心地の良さを示す「居住性」や自分の居室空間に関する「領域性」の因子の他に、矯正施設として特有の保護・観護にまつわる「保護性」の因子が抽出され、加えて、印象評価、好ましき評価及び参加者の発話の分析により、各変数との関連性を捉え、寮室から見える景色として、寮室隣棟との間に植栽を施すことや窓辺に置く鉢植えの効果、また敷地境界フェンス越しに見える住宅の窓からの視線に対する意識、格子のタテヨコによる印象の違いなどを明らかにし、これらの結果を用いて、設計上有効な配慮及び工夫について提案を行っている。

第5章「結論」では、以上の成果を総括した上で、本研究で用いた手法について将来の施設設計を考える上での有効性を確認し、加えて、実務としての取り組みに必要なと考えられる今後の研究展開について示して、本論文を結んでいる。

備考：論文要旨は、和文2000字と英文300語を1部ずつ提出するか、もしくは英文800語を1部提出してください。

Note：Thesis Summary should be submitted in either a copy of 2000 Japanese Characters and 300 Words (English) or 1 copy of 800 Words (English).

注意：論文要旨は、東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。

Attention: Thesis Summary will be published on Tokyo Tech Research Repository Website (T2R2).

(博士課程)
Doctoral Program

論文要旨

THESIS SUMMARY

専攻： Department of	人間環境システム	専攻	申請学位 (専攻分野)： Academic Degree Requested	博士 Doctor of	(工学)
学生氏名： Student's Name	野口智美		指導教員 (主)： Academic Advisor(main)	大野隆造	
			指導教員 (副)： Academic Advisor(sub)		

要旨 (英文 300 語程度)

Thesis Summary (approx.300 English Words)

This study focuses on correctional facilities, particularly juvenile training schools, which accommodate juveniles who have been referred there by family courts as a protective measure and provide them with correctional education. This study intends to examine architectural design for these facilities in order to achieve effective treatment.

The first chapter provides social background and fundamentals of correctional institutions.

The second chapter demonstrates the development of correctional institutions for juveniles through a literature survey in the fields of law, correction and facilities. The survey clarifies the fundamental philosophy of juvenile correction and proves the facility of juvenile training schools should be for the correctional education.

The third chapter illustrates the current facilities and explains the features of these architectural planning in reference to the articles issued by correctional organizations. Then, the importance of providing the similar environment to that of ordinary society, comfort and open environment without confined feelings, in the correctional facilities is suggested. Several surveys are conducted in housing complexes of ordinary society in order to analyze residents' consciousness, and the result shows the views from windows is an important factor for connecting residents in the rooms to the outdoor space.

The fourth chapter explains about the experiments using a mock-up of a typical private room of juvenile training schools. The variables are the direction and position of iron bars on the window and outside scenes. Participants are asked to imagine being a juvenile inmate and to describe their impressions and preferences for each of the conditions of the simulated room by answering to questionnaires and giving interviews. Through analyses, several points to be especially considered are proposed, for layout planning and guidelines on the design around windows of private rooms in juvenile training schools.

The last chapter summarizes the entire study and indicates prospects for future study on correctional facilities.

備考：論文要旨は、和文 2000 字と英文 300 語を 1 部ずつ提出するか、もしくは英文 800 語を 1 部提出してください。

Note：Thesis Summary should be submitted in either a copy of 2000 Japanese Characters and 300 Words (English) or 1copy of 800 Words (English).

注意：論文要旨は、東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。

Attention: Thesis Summary will be published on Tokyo Tech Research Repository Website (T2R2).